



さちが丘小学校 学校だより

若竹

9月号

令和5年8月28日
横浜市立さちが丘小学校
校長 高浜 正太郎
TEL.361-0777 FAX.361-0787

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sachigaoka/>

今後の教育活動に向けて

校長 高浜 正太郎

猛暑日が続く夏休み前半から、お盆にかけての台風6号・7号の日本列島への上陸、暑さが戻ってきた後半という夏休みになりました。暑さや台風の影響によって旅行やレジャーの計画変更などもあったのではないのでしょうか。38日間という長い休みを終えて、今日から前期の後半が始まりました。さち小の子どもたちも元気に登校し、久しぶりに会う友だちや担任との会話も弾んでいました。

この夏休み中には本校の校庭や体育館、ピロティを会場として、さちが丘地区連合町内会主催の夏祭りも4年ぶりに行われました。どの子ども家族や友だちと一緒に来場して、出店された様々なブースに並び、楽しいひと時を過ごしていました。卒業生の参加も多く、この地区の子どもたちにとっては楽しみにしていた行事なのだとことを実感しました。

全国的に見ても、各地では夏祭りや花火大会、高校野球、イベントなど、「声出しNG」といったような制限はなくなり、コロナ禍以前の夏の風物詩が行われたことは心休まるひと時を与えてくれたことと思います。

ところが、日本全国に約80万も存在する祭りが、人手不足や資金不足により存続できなくなっているものもあるといわれています。他にも、花火大会は運営費の確保や見物客の安全な誘導等が問題となって厳しい状況に置かれていることも事実であり、何もかもが「コロナ禍以前のように」とはいかなくなっています。

「新型コロナウイルス」という一つの大きな波を何とか乗り越えてきた現在において、まさに「持続可能な在り方」がキーワードとなり、さらなる工夫や改善が求められているように感じています。そして、このことは学校における教育活動にも当てはまることであり、ゴールデンウィーク明けの5類移行に伴い、全ての教育活動をコロナ禍以前に戻すのではなく、「子どもたちにとって、よりよい学びとなっているか」と「持続可能な取組となっているか」を判断基準として再考していき、工夫や改善していく必要があると考えています。

今後予定されている宿泊体験学習や遠足、運動会、卒業式等の行事も含め、様々な教育活動の実施に向けて教職員一同でさらなる検討を重ね、保護者や地域の皆様に発信してまいります。まだまだ残暑の厳しい中ではありますが、熱中症対策を心がけながら学習活動を再開いたします。ご家庭におかれましても、毎朝の健康観察を引き続きよろしく願います。

